

令和7年度 建築学教室教職員名簿

専任教員	教授	浅里和茂	鋼構造	16 号館	1階	106	8734
	教授	浦部智義	建築計画	45 号館	3階	304	8743
	教授	千葉正裕	構造力学	16 号館	2階	204	8733
	教授	濱田幸雄	建築環境工学	16 号館	3階	310	8752
	教授	速水清孝	近代建築史	9 号館	3階	310	8872
	教授	S.N. パリーク	建築材料学	9 号館	1階	102	8747
	教授	廣田篤彦	都市計画	9 号館	3階	308	8749
	教授	ブンタラ S.G.	建築基礎構造	16 号館	2階	206	8735
	准教授	齋藤俊克	建築材料学	9 号館	1階	114	8740
	准教授	辻村壮平	建築環境工学	16 号館	3階	310	8752
	准教授	野内英治	応用力学	16 号館	2階	207	8744
	准教授	宮城聡	建築設備	16 号館	3階	311	8751
	准教授	山田義文	建築計画	45 号館	2階	205	8741
	専任講師	市岡綾子	建築計画	45 号館	3階	305	8746
	専任講師	高橋岳志	インテリアデザイン	9 号館	3階	307	8785
	専任講師	日比野巧	構造力学	16 号館	2階	205	8753
	専任講師	堀川真之	鉄筋コンクリート構造	16 号館	3階	106	8723
	専任講師	宮崎渉	建築関連法規	45 号館	2階	207	8742
	専任講師	山岸吉弘	日本建築史	9 号館	3階	309	8737
大学院 兼任教員・非常勤講師	非常勤講師	宇都宮雅人	建築職業倫理特論／建築設計演習Ⅳ	16 号館	3階	310	8752
	非常勤講師	滑田崇志	建築設計計画特別実習	45 号館	3階	304	8743
	非常勤講師	濱尾博文	建築構造設計特別実習	16 号館	1階	106	8734
	非常勤講師	森山修治	建築設備防災特論／建築設計演習Ⅲ	16 号館	3階	310	8752
	非常勤講師	米田正彦	建築職業倫理特論	16 号館	3階	310	8752
学部 非常勤講師	非常勤講師	阿部直人	建築設計	9 号館	3階	308	8749
	非常勤講師	荒牧陽一	建築施工Ⅱ	16 号館	2階	204	8733
	非常勤講師	江田紳輔	建築設計演習Ⅲ	45 号館	3階	304	8743
	非常勤講師	栗原隆	建築設計演習Ⅲ	9 号館	3階	310	8872
	非常勤講師	佐久間宏一	建築設計演習Ⅰ	45 号館	3階	304	8743
	非常勤講師	佐藤英次	建築設計	16 号館	2階	207	8744
	非常勤講師	竹ヶ原雄	建築設計演習Ⅳ	45 号館	3階	304	8743
	非常勤講師	田中直樹	建築設計演習Ⅰ	45 号館	3階	304	8743
	非常勤講師	中山武徳	建築設計演習Ⅱ	9 号館	3階	310	8852
	非常勤講師	鍋田知宏	建築造形演習	45 号館	3階	305	8746
	非常勤講師	野中恒	建築施工Ⅰ	16 号館	2階	204	8733
	非常勤講師	原澤一仁	建築設計	16 号館	2階	207	8744
	非常勤講師	檜山延雄	建築設計	9 号館	3階	308	8749
	非常勤講師	平野由朗	建築設計演習Ⅳ	45 号館	3階	304	8743
	非常勤講師	藤倉裕介	建築材料実験	9 号館	1階	102	8747
	非常勤講師	松田知子	建築設計演習Ⅲ	9 号館	3階	310	8872
	非常勤講師	渡部和生	建築設計	9 号館	3階	310	8872
事務職員	教室事務	橋本亜希子	建築学科センター	16 号館	3階	309	8730

[共通電話局番:024-956]

3年生の研究室訪問が7月下旬から始まり、後期開始時には所属研究室が決まります。1,2年生の皆さんも本号の「卒業研究テーマ」や「就職活動報告」の内容をチェックして、それぞれの目標に向かって計画的な学修を進めてください。(山田)	お願い:編集室までご意見・感想をお寄せください。 ceb.soukon@nihon-u.ac.jp
--	--

創建 そうこん

2025・7・20 VOL. 60 NO. 1 (通巻 189 号)

- 巻頭言:浅里和茂 · 1
- 令和8年度 卒業研究テーマ一覧 · 2~3
- 令和6年度 就職状況報告 · 4~5
- ネットワークOB&OG_27:油井敏和 · 6
- 研究発表/教室ニュース · 7
- 令和7年度 建築学教室教職員名簿 · 8

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

かなり古いけれども医療系の海外ドラマのおはなし。死期が迫った医師が終焉の場所として選んだのはハワイ。離婚のため遠くに住むティーンエイジャーの一人娘を呼び寄せる。そこで彼女が彼女にいくつかの事を伝えようとして、車の運転に使ったのはマニュアルトランスミッションのピックアップトラック、もちろんともに走るわけもなく。カーステレオのカセットテープ!?からはトッド・ラングレン、当然彼女のお好みではない。サーフィンのために買い与えたのはロングボード、でも彼女の視線はサーフショップのイケメン。いやはや時間というもののギャップはいかに残酷なのか。

“ふてほど”のようなタイムマシンがあるはずもなく時間は一方通行で、かつ絶対的なものは、1秒はセシウム原子のとある振動周期の91億9263万1770倍と決まっています。けれど人間の感覚的には相対的でもあって90分の授業は永遠に終わらないかのように永く、年齢を経るほど1日は短くなって感じられます。1日の相対量がこれまで過ぎてきた日数に対する値だとすると、私は1/23600日、小学1年生なら1/2200日、1日が短いわけです。でも人間同士より人間と地球との時間のギャップ、タイムスケールの違いはそれ以上かもしれません。

耐震設計に関わるものとして地震を知ることも大変重要ですが、ここにも時間のギャップが横たわります。私自分が体験したり、強く意識するようになったりした地震の最初は1976年宮城県沖地震から。その後には1983年日本海中部地震、1984年長野県西部地震、1993年北海道南西沖地震、そして1995年兵庫県南部地震から2004年新潟県中越地震、2011年東北地方太平洋沖地震、2016年熊本地震、2024年能登半島地震へと続いています。この間にもう

少し小規模な地震は多数あり、揺れを感じられないものも含めれば毎日何度も日本のどこかで発生しています。しかし1995年神戸の大災害ですら、ギャップが風化させようとしています。

ここ最近報道されることの多い静岡以西の南海トラフを震源とする巨大地震は過去に津波被害も甚大で、連動性や周期性があります。現在から近いのは昭和東南海地震1944年12月7日、昭和南海地震1946年12月26日、これ以前が安政東海地震1854年12月23日、安政南海地震1854年12月24日です。昭和で約80年前、安政はさらにその約90年前、それ以前の記録からは約100年から150年の間隔で起

遺すべきもの

教授 浅里和茂

こつたとされていて危険性が高まっていると考えられています。また昭和の東南海と南海の間は2年、安政ではわずか1日の差で揺れに襲われました。およそ100年のうち2年はすぐ、1日は直後とも言え、連動性があると言われる理由です。この地震は一度発生すると大きな被害となるため断片的なものを含めればおよそ1000年前の古い記録にも残っていますが、江戸以前での災害記録は文化的基盤がない地域ではあいまいで欠落もあります。福島県では一例として1611年の会津地震の記録があり、さすが城下町です。このように地震のタイムスケールは人の世代を超えて、大きなギャップとなります。

2011年3月11日の東北地方太平洋沖

地震では、新宿超高層ビル群の長周期地震動による長時間の揺れの記録動画がYouTubeに残されています。今後の記録(Record)はどうしてもデジタル化が主となりますが、記録メディアの寿命は紙よりも短命です。アナログレコードがCDに置き換わられようとしている頃、未来は円盤ではなく、メモリそのものを買うようになって思いました。でも現実はそのを通り越してネットワーク越しに配信されていて、デジタル技術はこちらの予想の斜め上です。反面、レコードの売り上げが増えてきているので、再生機器を後生大事に持っているのは少し自慢です。

今は何かを知りたいとき、ちょっとした調べ物をしたいとき、自分の脳の外部記憶のようにネットワークを使うのが当たり前になっています。AIもそうです。漢字を覚えるために何度も書いたり、公式を暗記するために繰り返し使ってみたりすることは無駄なこと、余計なことと思われるとしたら少し残念です。これがギャップ、デバイドかもしれません。ところでYouTubeやGoogleって、バックアップは大丈夫ですよねぇ。信じてもいいですよねぇ。

かつてJSCA(日本建築構造技術者協会)の副会長は、とある審査会で“構造は体育会である”とコメントを残しました。これはスポーツの基本動作と同じくらいに、力の流れとか釣り合いを把握する能力はかつて九九を勉強したときのように繰り返さないと身につかないとの意味でした。構造デザインとして秀逸な形態も、その根本はニュートン力学で紙と鉛筆と電卓で対峙することに他なりません。

ところで、冒頭の医師は結局のところ「原理・原則」だけを父親として伝えたかったのではないかと。最近、ふと、そう思います。

令和8年度 卒業研究テーマ

現在、建築学科には16の研究室があり、構造、材料・施工、環境・設備、建築計画、都市計画、歴史・意匠といった分野に大きく分けられます。各研究室では、それぞれの専門領域に基づいた教育と研究が行われています。

卒業に必要な科目のひとつである「卒業研究」には、4年次の1年間をかけて取り組みます。学生は研究室に所属し、教員や大学院生のアドバイスを受けながら、自らのテーマに沿って専門的な研究を進めていきます。まずは「どのような卒業研究に取り組みたいか」を考え、その内容に合った研究室を選ぶことが大切です。

卒業研究は「論文」または「設計」から選ぶことができますが、研究室によっては分野の特性上、どちらか一方に限定している場合もあります。各研究室が設定している選択形式は、研究室名の後ろにある「」内に記載されていますので、あらかじめ確認してください。

コンピューテーション応用力学研究室〔論文〕

教授：ガン ブンタラ ステンリー

1. テンセグリティ構造の解析・形態創生・最適化に関する研究
2. バイオテンセグリティの概念を応用した建築構造の探求
3. 建築構造物における自然現象・生物行動をヒントとした最適化手法の研究
4. 平坦な紙から立体になる折り紙構造の制作手法、または立体形状から山折り・谷折りの線を導出する折り紙計算法の研究
5. 地震や風によって建物に生じる「ゆれ」（震度階級・振動レベル）を定量的に評価する手法の開発
6. 各階の震度階級をリアルタイムに表示する電子装置（地震・風の緊急速報装置）の研究開発
7. 建物の耐震設計・補強・診断における定量的評価手法の開発
8. 人工知能（AI）を活用した建築・構造・防災分野におけるデータ解析と設計支援の研究

空間構造システム研究室〔論文〕 | 准教授：野内 英治

1. 空間構造に関する研究
2. 各種構造の設計・解析に関する研究
3. 構造物の振動・耐震に関する研究
4. 構造解析ソフトウェアの開発
5. その他（要望に応ずる）

構造解析研究室〔論文〕 | 専任講師：日比野 巧

1. 耐震補強効果の評価手法に関する研究
2. 既存建物の立体振動性状に関する研究
3. 建物の減衰評価に関する研究
4. 建物の構造解析モデルに関する研究
5. 木造軸組構法住宅における耐震性能に関する研究
6. 液状化現象に関する実験

鉄筋コンクリート構造デザイン研究室〔論文〕

専任講師：堀川 真之

1. 能登半島地震で被災した鉄筋コンクリート造建物の復旧性能評価
2. 福島県沖地震で被災した鉄筋コンクリート造建物の復旧性能評価
3. 曲げ圧縮破壊する鉄筋コンクリート梁の実験と解析モデルの妥当性確認
4. エネルギーの釣合に基づく骨組解析の高度化と応用に関する実践的研究

鉄筋コンクリート（RC）構造・材料研究室〔論文〕

教授：サンジェイ パリーク

1. 自己治癒・自己修復機能を有するコンクリートの研究・開発
2. ジオポリマー（セメント使用しない）複合体に関する研究・開発
3. 相変化材料（PCM）の建物への適用に関する研究・開発
4. SDG'sを中心とした建築材料による二酸化炭素の削減に関する研究・開発
5. 建築材料及び高強度コンクリートの防火・耐火性能とその改良に関する研究
6. インド住宅用の省エネ新構法や歴史的石造建造物調査・保存の研究
7. 宇宙建設に関する研究
8. コンクリート電池の研究・開発

建築材料学研究室〔論文〕 | 准教授：齋藤 俊克

1. ポーラスコンクリートの強度及び耐久性の改善
2. RC構造物用表面被覆材または断面修復材としてのポリマーセメントモルタルの性能評価
3. 自然環境下におけるコンクリート系材料の耐久性評価
4. RC構造物用環境負荷低減型断面修復材の開発
5. RC構造物用表面含浸材の性能評価
6. 各種プレキャストコンクリート製品の製造法がその性能に及ぼす影響

社会音響学研究室〔論文〕 | 准教授：辻村 壮平

私の研究室では、環境心理学や音響工学の視点から「人の心理生理的な評価モデルの構築とそれを応用した環境デザイン手法に関する研究」に取り組んでいます。主な研究テーマは以下のとおりです。

1. 音環境の違いによる人の発話特性の変化を考慮した飛沫放出量の予測モデルの構築
2. ワークプレイスのバイオフィリックデザインに適した音環境に関する研究
3. 屋外滞留空間における執務行為時の環境評価に関する研究
4. 環境騒音が睡眠に与える影響に関する社会音響学的研究
5. 公共施設の音環境や案内サイン計画に関する研究

建築設備研究室〔論文〕 | 准教授：宮城 聡

1. 潜熱蓄熱材の熱特性予測計算方法に関する研究
2. 熱物性測定装置の制御方法に関する研究
3. 再生可能・未利用エネルギーを利用した省エネルギー空調システムに関する研究
4. 潜熱蓄熱建材の熱物性測定に関する研究
5. 熱流センサーの校正方法に関する研究

建築計画研究室〔論文・設計〕 | 教授：浦部 智義

1. 文化・医療・教育など施設・空間に関する研究と計画
2. 農村舞台など地域資源の役割・活用に関する研究と計画
3. 構法も含めた環境デザイン建築に関する研究と計画
4. これからの建築・都市空間に関する研究と計画
5. これからの住まい・まちづくりに関する研究と計画

医療・福祉建築デザイン研究室〔論文・設計〕 | 准教授：山田 義文

1. 知的障がい・発達障がい者のニーズに対応した建築の活用方法
2. 福祉避難所に指定された公共施設における運営計画
3. 公民館における建築・運営特性と稼働率の推移
4. 地域資源（古民家や廃校等）の福祉転用による地域活性化
5. 車椅子使用者用便房における空間寸法の有効性
6. スマートフォン連携自動ドア制御システムの評価検証実験
7. カームダウンスペースのデザイン評価と設置計画検証

住環境計画研究室〔論文・設計〕 | 専任講師：市岡 綾子

1. 景観まちづくり・景観学習に関する実践的活動及び研究
2. 地域におけるまち資源の活用に関する研究
3. 居住空間、住環境、子育て環境に関する研究
4. 福島県を主とした復興・防災まちづくりに関する研究
5. 環境と人々との関係に関する環境行動研究
6. 和室に関する研究

建築設計研究室〔論文・設計〕 | 専任講師：高橋 岳志

〔卒業設計〕

各自がテーマを設定し、論文と同様に調査・分析・考察を行い、設計に取り組みます。

〔論文〕

1. 木質建築の生産システムに関する研究
2. 中大規模木造建築物における地域材利用に関する研究
3. 設計事務所におけるBIM導入に関する研究
4. 地域に根ざす建築家の活動に関する研究
5. 建築的アプローチによるまちづくりの計画と展開

建築・地域計画研究室〔論文・設計〕 | 専任講師：宮崎 渉

1. 地域計画・地域デザインに関する研究
2. 既存建築ストックの再生・活用に関する研究
3. 地域振興施設のあり方に関する研究
4. 木造・木質建築の利用者評価に関する研究
5. 建築とデジタルファブリケーションの可能性に関する研究

都市計画研究室〔論文・設計〕 | 教授：廣田 篤彦

1. 水害に対する意識と避難行動に関する研究
2. 空き家の実態と対応に関する研究
3. 地方都市における道の駅の運用に関する研究
4. コロナ禍の観光行動に関する研究
5. 乱横断に関する研究
6. オリンピックのホストタウンに関する研究

建築歴史意匠研究室〔論文・設計〕 | 教授：速水 清孝

〔論文〕

1. 建築・都市の歴史に関する研究
2. 建築・町並みの保存と活用に関する研究と実践
3. 建築技術の歴史に関する研究
4. 建築家の作家論に関する研究
5. 建築技術者の職能と法制に関する研究

〔設計〕

1. 持続可能な社会に向けた建築の提案
2. 歴史からの発想を踏まえた建築や都市への提案

建築史研究室〔論文・設計〕 | 専任講師：山岸 吉弘

建築史研究室では、各自で自由に卒業研究のテーマを設定することができます。「建築史」という観点からの研究であれば、論文と設計のどちらを選択しても結構です。これまでに取り組まれた主なテーマには、「社寺、民家、城郭、まちなみ、都市、宿場町、職人」などがあります。現在では、古民家の研究を重点的に実施しています。

新任紹介

教室事務：

橋本 亜希子



令和7年1月より建築学科センターに着任致しました橋本亜希子と申します。これまで、土木工学科センターで3年、一度退職の後、教務課で4年従事して参りました。

工学部内での異動とはいえ、多岐に渡る学科センターでの業務は想像以上に大変でした。着任早々、先生方にはご迷惑をおかけしてばかりでしたが、その都度、あたたかくサポート

していただきました事、感謝の気持ちでいっぱいです。

建築は、人々の生活を豊かにし、社会にとって重要な分野だと思います。その分野に携われる事を大変ありがたく思っております。

今後たくさんの事を学ばせていただきながら、精一杯頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

新任紹介

准教授:

辻村 壮平

担当科目:

建築環境工学



本年度より建築学科の教員として着任いたしました辻村壮平です。本学科では、建築環境工学と建築製図に関わる授業を主に担当させていただきます。私は大学院博士後期課程修了後、ポスドクとして様々な大学で研究に携わりました。その後、公益財団法人鉄道総合技術研究所に約4年間勤務し、鉄道に関する研究開発に従事しておりました。前任の茨城大学には約9年間在籍し、教育・研究活動に尽力してまいりました。

私の専門分野は環境心理学と音響工学で、主に建築環境工学の環境心理生理分野ならびに音環境分野において研究教育活動を行っています。人の生活を豊かにする社会基盤の創造に貢献することが研究者としての責務と考えており、人間と環境の相互作用を理解するという立場から、建築・都市空間の音環境を中心に、「人の心理生理的な評価モデルの構築とそ

れを応用した環境デザイン手法」について研究を進めています。例えば、ワークプレイスや公共施設の音環境のあり方、多様な利用者のニーズに応える環境デザイン手法、ウイルス感染症のリスクを音の情報から予測する新しい方法論の開発など、人の認知や感性から環境をデザインする幅広いテーマに挑戦しています。

現在、私が最も力を入れている研究は、ウイルス感染症の感染確率予測モデルにおける新たな発生系パラメータの生態学的妥当性の向上を目標としたものです。具体的には、発話時の音環境の違いによる人の発話行動特性の変化を考慮した飛沫放出量の予測モデルの構築や、他者よりも発話時に非常に多く飛沫を放出する「スーパーエミッタ」を発話音声から識別する手法に関する研究です。将来的には、音環境をモニタリングすることで、飛沫感染確率を予測できるシステムの開発や、音環境に対する発話者の認知心理モデルを応用した飛沫感染リスク低減対策まで見据えております。

また、ワークプレイスの音環境については、これまでの知的生産性向上に関する研究を発展させ、ワーカーのウェルビーイングの観点から、オフィスのバイオフィリックデザインに適した音環境の構築に取り組んでいます。さらに、これま

で行ってきたインクルーシブな鉄道駅の環境デザインに関する研究を発展・応用し、建築計画分野の先生方と共同で、地方都市の総合病院のサイン計画や庁舎建築における掲示空間の運営方法、観光と日常生活に配慮した自転車利用者の河岸道整備方針の検討も行っています。これらの研究成果の中には、JR東日本管内の列車に整備されている色覚配慮型路線図や、駅に導入されている案内放送の最適提示システム、パナソニックのCOMORE BIZ(コモレビズ)のように、実用化に至っているものもございます。このように、研究で得た知見を社会に還元することにもこだわり、企業や自治体と連携して、実際に役立つ手法の開発や提案にも積極的に取り組んでいます。

4月から新たな環境に身を置くことになり、まだ慣れない点も多く、何かとご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、建築学科の先生方をはじめ職員の皆様が暖かく迎えて下さったことをとても嬉しくしております。私の研究室にはまだ学生がおりませんが、「学ぶことの楽しさ」と「学んだ知識が社会でどのように役立つのか」を実感してもらえるような教育を心がけ、研究活動を通じて学生の皆さんとともに楽しく学び、その楽しさや喜びを伝えられるよう努めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

非常勤講師:

竹ヶ原 雄

担当科目:

建築設計演習Ⅳ



この度、非常勤講師として、建築設計演習Ⅳを担当することになりました竹ヶ原です。私は本学建築学科卒業、博士前期課程建築学専

攻修了後、現在在職の設計事務所に入社。以来20数年にわたり、東北地方の建築設計に携わって参りました。主な担当案件用途は医療福祉を中心に、教育施設、文教、市庁舎などです。また福島県内で担当させて頂いた物件も多いため、身近にあるそれら施設を通じて、建築設計のポイントなどを伝えながら、皆さんと一緒に演習課題を読み解き、議論できる場を創造出来ればと考えております。

学生時代は、研究室配属後、高齢者福祉施設や住宅のバリアフリーに関する使われ方

研究に取り組みました。そこでのフィールドワークや同期・研究室の先輩後輩との活動は大切な思い出でもあり、今でもその交流が続いております。

建物を中心に今の時代を考えると、少子高齢化やそれを取り巻く様々な環境(気候、IT、DX、金融等)の中、一つの側面からだけで何かを見出すことが難しくなってきました。

演習を通じ色々な意見を交わし、一つの答えだけを求めるのではなく、様々な考え方があり、それでも良いのではという柔軟な思考を見出し、分かち合える場になればと考えております。

非常勤講師:

江田 紳輔

担当科目:

建築設計演習Ⅲ



このたび、建築学科の非常勤講師として3年生前期の設計演習を担当することになりました江田紳輔です。高橋岳志先生と一緒に担当さ

せていただきます。このような一連の講義を担当するのは初めてで、新たな挑戦として楽しみながら臨んでいます。

普段は仙台の設計事務所「関・空間設計」で、公共建築を中心に設計監理の仕事をしています。福島県では「二本松市城山市民プール」や「飯舘村 道の駅」などの設計にも携わりました。

建築デザインは、論理的思考と直観的思考を行ったり来たりしながら、その場かけがえのない建築や環境を考えていきます。そして、意匠チームやエンジニア、施工者、様々な人たち

と協働するためのコミュカとともに、多くの関係者のベクトルをまとめてゆくための「骨太なコンセプトづくり」が大切です。

建築デザインの複雑さは増し、苦労が絶えないけれど、世の中をハッピーにする建築・環境をリアルに創造することができる、だから建築は面白い………といつも思います。

建築デザインの基礎はもちろん、その魅力や奥深さを学生のみなさんに伝えることで、将来、設計者として力強く羽ばたくための一助になりたい、と思います。どうぞよろしくお願いします。

令和6年度 就職状況報告

令和6年度の就職状況を見ると、東京都の企業へ就職した人は66人(42.3%)と最も多く、次いで関東が30人(19.2%)、東北が27人(17.3%)でした。昨年度と比較すると、東京都は6.0%、関東は7.3%増加しました。一方、東北は5.3%、近畿は3.6%減少しました。出身都道府県に就職した人の割合が高かったのは、群馬県、新潟県、福島県、茨城県でした[表1、図1]。

就職先業種を見ると、例年と同じく「建設業」の業種が最も多く、115人(67.6%)の学生が就職しました。この内訳は、建設:67人(42.9%)、住宅:29人(18.6%)、設計:7人(4.5%)、設備:6人(3.8%)、不動産:6人(3.8%)でした[表2、図2]。

採用活動の早期化が進んでおります。志望企業に関する情報収集をこまめに行い、授業とのバランスも考えながら皆さんの目標実現に向かって主体的に就職活動を進けてください。

表1:地域別就職者数

	就職者数(人)	(%)	うち出身地に就職
東京都	66	42.3	1
関東(東京を除く)	30	19.2	17
北海道	0	0.0	0
東北	27	17.3	22
甲信越	8	5.1	8
東海	10	6.4	2
北陸	0	0.0	0
近畿	13	8.3	0
中国	2	1.3	0
四国	0	0.0	0
九州・沖縄	0	0.0	0
外国	0	0.0	0
計	156	100.0	50

表2:企業業種別にみた就職者数

就職先業種	就職者数					
	男子		女子		総計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
A 建設業	100	70.4	15	53.6	115	67.6
B 製造業	7	4.9	0	0.0	7	4.1
C エネルギー	1	0.7	1	3.6	2	1.2
D 商社	3	2.1	1	3.6	4	2.4
E サービス	9	6.3	4	14.3	13	7.6
F IT・情報処理	0	0.0	1	3.6	1	0.6
G 情報(通信・マスコミ)	2	1.4	0	0.0	2	1.2
H 運輸・倉庫	1	0.7	0	0.0	1	0.6
I 官公庁・団体	7	4.9	4	14.3	11	6.5
J 進学	12	8.5	2	7.1	14	8.2
就職・進学者数	142		28		170	

【主な就職先】

建設・エンジニアリング: 大東建託(株) | 大成建設(株) | 松井建設(株) | 鹿島建設(株) | 三井住友建設 | 佐藤工業(株) | 戸田建設(株) | (株)大林組

建築設備: (株)MJAPAN | (株)アベックエンジニアリング | 日比谷総合設備(株) | 第一工業(株) | 住友電設(株) | (株)長谷工コーポレーション

住宅・不動産: 住友不動産(株) | 旭化成ホームズ(株) | ミサワホーム(株) | (株)一条工務店 | 積水ハウス(株) | 大和ハウス工業(株)

設計事務所・コンサルタント: (株)杜設計 | 日本郵政建築(株) | (株)日水コン

製造業・建築関連: (株)荏原製作所 | 太平洋マテリアル(株) | 昭和産業(株)

公務員・団体職員: 鶴岡市 | 福島県 | 水戸市役所 | 茨城県教育委員会 | 品川区

進学先: 日本大学大学院 | 芝浦工業大学大学院 | コンケン大学 | PINES校 他多数

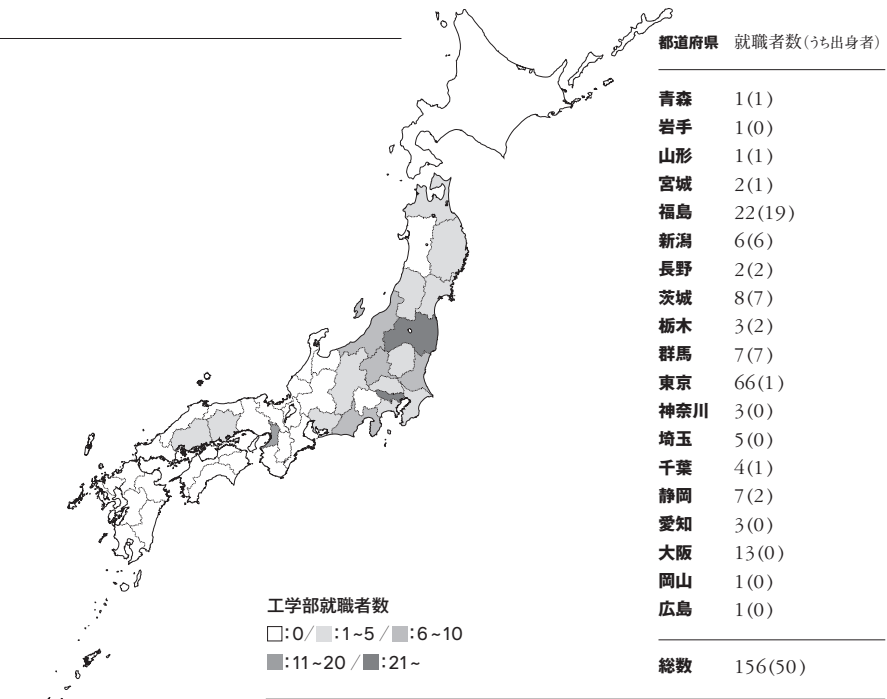


図1:都道府県別の工学部建築学科就職者数

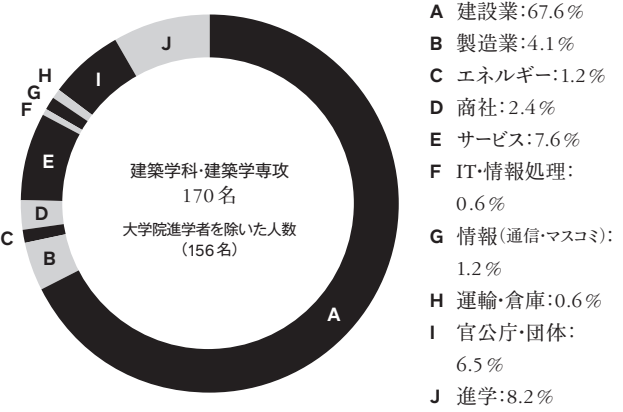


図2:進路先分布

建築と教育が織りなす私の羅針盤～母校で培った学びと未来への貢献～

文部科学省初等中等教育局 教科書調査官 油井敏和（建築45回）

第45回卒業生の油井敏和です。恩師 谷川正己先生ご尽力の「創建」に寄稿の機会をいただき、感謝申し上げます。工学部で培った専門性、教育現場・教育行政で得た経験から、子どもたちの未来を共に創る「教職の魅力」をお伝えします。

母校が育んだ「建築」と「教育」の架け橋

工学部建築学科は創設以来、日本の建築界を牽引する技術者・研究者を輩出してきました。特に、充実した教職課程を通じ質の高い教育者を全国に多数育成し、かつては高校工業科教員数で全国最多を誇るなど、高度経済成長期から日本の産業を支える中堅技術者育成の礎を築きました。現在も工業科はもちろん、中高の数学・理科、技術、情報で多くの教員が活躍し、各都道府県の指導的立場を担う管理職も多数輩出されています。本学出身教員の教え子が母校へ入学し次世代を担う、好循環を生み出しています。

建築への原点と工学部での成長 私の羅針盤は、雪深い山形県米沢市の父の工務店でした。幼い頃から職人さんに囲まれ、地域と深く結びつく建築に憧れ、米沢工業高校で基礎を学びました。高校時代のアメリカ短期交換留学では、相互の家庭で異文化理解を深め、広大な円形農場や街並みに感銘を受けました。これらの経験が建築をより深く学ぶきっかけとなり、阿部孝校長先生（電気9回）の強い薦めもあり、建築学科への進学を決意しました。

建築学科では、個性豊かな先生方の講義や実験・実習を通して、建築の奥深さにのめり込みました。俊英学寮での共同生活や仲間との交流は、人間的成長の糧となりました。卒業研究では、佐藤平先生の研究室で、高齢者の住宅30軒の段差、床材、手すり等の実測調査と図面化からデータ分析し、高齢者の夜間移動の潜在的危険性を具体的に明らかにしました。仲間と改善策をまとめた経験は、現在の私の礎となっています。

教職課程では、故 村田邦子先生や、校長経験のある実務家教員から丁寧にご指導いただきました。母校での教育実習での高校生の真剣な眼差しから、教員の仕事が子供たちの将来に直結する尊いものだ実感しました。文部省技官のご経歴をお持ちの佐藤平先生の後押しもあり、教員になることを決意しました。

教育現場の実践と母校との絆 平成9年度、酒田工業高校土木科へ新任教員として赴任しました。職員室の半数近くが工学部出身で、指導教官の伊藤克之先生（土35回）には大変お世話になりました。永田進先生（建22回）とは学校訪問で出会い、以来30年近くご指導いただいています。校友会教育部会（アカシア教育研究会）会長の関根敬治先生（建16回）や永田先生の後押しもあり、山



形県では平成25年度に菅原伸一先生（機20回）、齋藤敬一郎先生（建23回）、菅原和明先生（電26回）、阿部英敏先生（工化33回）が中心となり、「アカシア教育研究会山形県支部」を設立し連携体制を築きました。毎年の総会には、校友会長、大学関係者の出席をいただき、一層強固になっています。また、高大連携教育懇談会や学術研究報告会を通じた出身教員と大学教員との意見交換や交流を通じて、母校をより身近に感じ、優秀な生徒を母校へ送る一助となっています。

長井工業高校、米沢工業高校では、特に建築の授業で、新国立競技場の設計2案のディベートを通じ、立場による意見を討論する探究的で深い学びを実践しました。5回の卒業担任で多くの生徒の進路実現を支援できたことは喜びです。バドミントン部監督として2回のインターハイ出場も果たし、生徒と共に成長する喜びは教員人生における大きな財産です。

社会の変化に対応する教育行政の推進 平成30年度からは県教育委員会事務局で、県立高校全体の教育施策に携わり、学習指導要領の周知から中高入試、教員研修、GIGAスクール構想推進のための情報基盤整備など、多岐にわたる教育施策の企画立案、予算化、推進を経験しました。本県初の県立高校PFI形式での校舎改築に携われたことは喜びです。

令和5年度からは文部科学省で、主に中学校「技術」、高校「工業」の教科書検定に携わっています。教科書が建築をはじめとする専門分野と高校教育を結ぶ重要な架け橋であると日々実感しています。リスキリングの一環として教職大学院で学校経営の研究を深めつつ、休日は山形県バドミントン協会の活動や、各地の建築と街並み巡りで知見を広げています。

未来を担う学生の皆さんへ～建築と教育の羅針盤～

激変する社会で未来を担う子どもたちを育む教員の仕事は、大きな魅力に満ちています。工学部で培われる専門知識・技術、論理的思考力、実践力は、STEAM教育や探究学習、ICT活用といった現代の教育課題を解決する強力な推進力となります。子どもたちの成長を間近で感じ、共に未来を創り上げる喜びこそ、教員の最大の醍醐味です。これからも母校で得た経験と絆を胸に、建築のように社会の基盤を築き、教育を通じて未来の人材を育むという二つの情熱を融合させ、社会に貢献してまいります。

建築分野、そして広く工学分野を学ぶ皆さんにこそ、教職課程を強くお勧めします。工学で培われる力は、専門知識を未来に伝え、子どもたちの可能性を広げる教員として、大きな強みとなります。教員という仕事は自己の成長にもつながる、やりがいのある仕事です。教職課程での学びは、企業の社員教育、子育て、自身のキャリア形成など、人生の様々な場面で役立つでしょう。

- 西陸登、齋藤俊克、出村克宣、「ポリマーセメントモルタル被覆コンクリートにおける中性化深さ推定式の提案」、セメント・コンクリート論文集、Vol.78、pp.263-271、March 2025.
- 齋藤俊克、荒木裕人、福井拓也、神田利之、「断面修復工法における施工条件がポリマーセメントモルタルの曲げ、圧縮および接着強さ性状に及ぼす影響」、セメント・コンクリート論文集、Vol.78、pp.356-364、March 2025.

日本材料学会第74期学術講演会

会期：2025年5月30（金）～6月1日（日） | 会場：日本大学工学部（福島県）

- 粉末ポリマーを混和したアルカリ活性材料に関する基礎的検討

○山田宏・齋藤俊克・出村克宣・阿久根航・神田利之・若杉三紀夫

第88回日本建築学会東北支部研究報告会（みちのくの風2025宮城）

会期：2025年6月21日（土）・22日（日） | 会場：東北学院大学五橋キャンパス

- 福島県立三文化施設の構想過程について

○速水清孝

- 3Dプリンター印刷によるジオラマ模型を活用した街道集落のまちなみ再現-白河市大信上小屋地区での新旧比較

○高橋大翔・市岡綾子

- 廣田教授は、3月11日、郡山市より、空家等対策審議会委員を委嘱され、会長に選出された。
- 相良光希さん（市岡研究室・4年次生）、佐藤優奈さん（廣田研究室・4年次生）、三瓶夏蓮さん（浦部研究室・4年次生）の卒業設計作品と、小熊康太さん（宮崎研究室M2、代理発表/五箇亮甫さん（宮崎研究室M1））の修士論文を郡山女子大学・郡山女子大学短期大学部・日本大学工学部 合同展覧会 2025（3月15日～ 18日開催）に出展した。
- 市岡専任講師は、3月19日、富岡町より富岡駅前にぎわいづくり検討委員会委員を委嘱された。
- 浦部教授は、富岡町から富岡駅前にぎわいづくり検討委員会委員（委員長）を委嘱された（3月19日）。
- 浦部教授は、双葉町立新校整備基本設計・実施設計業務委託に係る公募型プロポーザルの委員として審査を行った（3月25日公表）。
- 山田准教授は、4月1日、福島県建設設計協同組合より、社会福祉法人桜が丘学園「石川共生園基本・実施設計業務委託」に係るプロポーザル審査委員を委嘱された。
- 山田准教授は、4月11日、福島県双葉町より、双葉駅西地区複合的福祉サービス拠点整備事業技術提案書審査委員を委嘱された。
- 浦部教授は、福島県から双葉地域における中核的病院整備基本・実施設計業務委託公募型プロポーザル審査委員会委員を委嘱された（4月30日）。
- 浦部教授が検討委員として携わった、「ふくしま造化・木質化建築ガイドライン——中大規模県有建築物の木造化・木質化に向けて」の改訂版が福島県土木部から発刊された（5月）。
- 浦部教授が副委員長・副議長として2ヶ年にわたり策定に携わった、富岡町災害復興計画（第三次）が公表された（5月）。
- 浦部教授と浦部研究室が、外構を中心として計画・設計に携わった、富岡ワイナリーがグランドオープンした（5月17日）。
- 三瓶夏蓮さん（浦部研究室卒）が、卒業設計作品「光を漉く——和紙の可能性——」で、第56回毎日・DAS学生デザイン賞《金の卵賞》建築部門で入選した（5月20日）。
- 市岡専任講師と市岡研究室は、5月27日、6月5日に、白河市立関辺小学校5年生を対象とした景観学習の支援活動を行った。
- 西陸登君（令和6年度齋藤研究室修士修了）は、5月28日、2024年度日本コンクリート工学会東北支部奨励賞（申請題目：ポリマーセメントモルタルの圧縮および曲げ強さ推定式の検討）を受賞した。
- 市岡専任講師と市岡研究室ほか学生有志は、6月2日、16日に、白河市立白河第五小学校6年生を対象とした景観学習の支援活動を行った。
- 市岡専任講師と市岡研究室は、6月10日、24日に、白河市立釜子小学校4年生を対象とした景観学習の支援活動を行った。

学術論文

学会発表

教室ニュース